

世界ラリー選手権の効果 をどう考えているのか

堀川 貴庸 議員

問 昨年9月、十勝管内でWRC（世界ラリー選手権大会）が開催された。大歓迎ムードの中、地元経済の活性化に大きく貢献するものと地元紙も特集作業に取り組んだ。

十勝管内5市町村が主な会場となったが、わが町においては、住民意識・経済効果ともに上向いたとはいえず、今後の課題といえる。

そこで、地元のPR、活性化のためには地域住民の参加は非常に重要な要素であり、成功の力ギと考えるが、見解を伺う。

① WRC開催による経済効果は。
② 観光産業への影響は。滞在型観光の実践はできたか。
③ 住民のイベント参加・意識を高める周知方法の検討とその目標設定の考え方について。
④ 今回のWRC開催を通じて「幕別町」をPRできたのか。

昨年9月、十勝管内でWRC（世界ラリー選手権大会）が開催された。大歓迎ムードの中、地元経済の活性化に大きく貢献するものと地元紙も特集作業に取り組んだ。

か。印象付けられたのか。

町長 **①** ホテル宿泊、スーパーなどの小売店、「サツナイ・スーパースペシャル・ステージ」の出店、同ステージの設営・撤去工事の受注等において直接的な経済効果があつたものと推測している。

② 世界ラリー選手権を通して、世界に十勝の魅力を発信することで、十勝における滞在型観光の振興が図られたものと考えている。

現在、オール十勝で滞在型交流産業に向けた取り組みを行っているが、本町においても参加・体験に結びつく環境づくりを進めており、ラリー選手権を契機に滞在型につながることを

期待している。
③ 広報紙、住民説明会、新聞、雑誌等で住民周知を行っているが、インターネットによる問い合わせが非常に多かったことから、観光物産協会などと連携を図り、あらゆる媒体を活用して周知をしていきたい。
④ 公式ホームページやラリー専門誌等において幕別町のPRは残念ながら十分ではなかった。

次回開催地として正式に決定した折には、幕別町を全面的に打ち出すよう働きかけていきたい。



昨年のラリージャパン札幌内特設会場

森林の有効活用を今後どう進めていくのか

問

今、世界規模での自然・環境対策あるいは砂漠や乾燥地帯に対する緑化政策が着実に進められているが、そもそも私達人類の生活には森林からの恵みを欠くことができない。

しかし、その森林が有する様々な機能をよく理解せずに、特に高度成長時代には伐採を続け、非常に限定的な用途でしか活用をしていないと思われる。

そこで、森林資源と共存

共栄している地域や国もあるが、町内の森林資源の今後と林業に対する対応について見解を伺う。

① 町有林・民有林の面積は。樹種はどうか。

② 町有林の役割と経済・財政効果について。

③ 森林の維持管理体制の確保・充実と対策。

④ 森林を活用した「スローライフ」の検討。

町長 **①** 人工林として、町有林の面積は1,197ヘクタールで、カラマツが約87%、トドマツが約8%、シラカバが約2%である。民有林は6,983ヘクタールで、カラマツが約81%、トドマツが約16%、シラカバが約2%である。

なお、天然林については把握している資料がなく、示すことができない。
② 町有林の役割として、保安林は風害、土砂流出・崩壊などの防止の機能。普通林は水源の涵養、二酸化炭素の吸収源、生物多様性の保全などの機能がある。

町有林の経済・財政効果は特に評価したものがなく、数字を示すことができない。

ない。

③ 森林の維持管理は、森林組合のノウハウや活動力を最大限活用する中で行っている。今後においても健全な保育を目的に、地ごしらえ、植栽、除間伐などの森林施業を引き続き計画的に実施していくとともに、森林保全対策として、シラカバやナラなどの広葉樹の植栽、自生を促す天然林化について調査研究したい。

また、産業としての林業振興についても、環境と経済の調和の取れた政策について研究したい。

